

2023年度 独創的研究助成費 実績報告書

2024年 2月 9日

報告者	学科名	看護学科	職名	准教授	氏名	木村 真司																						
研究課題	岡山県における小学生の食物嗜好と体格の関連																											
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担																							
	代表	木村真司	看護学科 准教授	小児看護	主研究者																							
	分担者																											
研究実績の概要	<p>【目的】小児期の食習慣は個人差が大きく、その偏りは肥満発症の要因のひとつとされる。本邦小児の食習慣は近年大きく変化したが、食習慣、特に食物嗜好の地域での特徴を明らかにした研究は少ない。本研究では岡山県において、簡便なスクリーニング法としてイラスト選択法を用い、小学生の食物嗜好を明らかにし、肥満発症との関連について検討することを目的とした。</p> <p>【方法】小学校に通学する4～6年生の小児を対象とした。</p> <p>1) 食物嗜好：イラスト画選択法により評価した。調査用紙上の36種の食品イラスト画から、対象小児に任意の10種を食間に選択させ、食品名、含まれるエネルギー、脂肪エネルギー比率を集計した。調査は食事の影響を避けるため、食間に実施した。</p> <p>2) 肥満度：身長・体重の測定値と性別年齢別標準体重値より肥満度を算出し、肥満度$\geq +20\%$を肥満群、それ以外を非肥満群とした。</p> <p>岡山県立大学倫理審査委員会の承認を得て実施した(23-38)。</p> <p>【結果】配布数423件、回収数111件(回収率26.2%)、有効回答数104件(有効回答率93.7%)。</p> <p>1) イラスト選択法による食物嗜好の男女差： 「ステーキ」「チャーハン」「飴」「クロワッサン」は、男子より女子で有意に選択した頻度が高かった($p<0.05$)。</p> <p>男女差</p> <table border="1"><thead><tr><th rowspan="2">食品名</th><th colspan="2">食品を選択した人数(%)</th><th rowspan="2">p値</th></tr><tr><th>男子</th><th>女子</th></tr></thead><tbody><tr><td>ステーキ</td><td>31(57.4)</td><td>19(38.0)</td><td>p=0.05</td></tr><tr><td>チャーハン</td><td>20(37.0)</td><td>5(10.0)</td><td>p<0.01</td></tr><tr><td>飴</td><td>9(16.7)</td><td>26(52.0)</td><td>p<0.01</td></tr><tr><td>クロワッサン</td><td>4(7.4)</td><td>13(26.0)</td><td>p=0.01</td></tr></tbody></table> <p style="text-align: right;">選択した人数(%)，χ^2検定</p>						食品名	食品を選択した人数(%)		p値	男子	女子	ステーキ	31(57.4)	19(38.0)	p=0.05	チャーハン	20(37.0)	5(10.0)	p<0.01	飴	9(16.7)	26(52.0)	p<0.01	クロワッサン	4(7.4)	13(26.0)	p=0.01
食品名	食品を選択した人数(%)		p値																									
	男子	女子																										
ステーキ	31(57.4)	19(38.0)	p=0.05																									
チャーハン	20(37.0)	5(10.0)	p<0.01																									
飴	9(16.7)	26(52.0)	p<0.01																									
クロワッサン	4(7.4)	13(26.0)	p=0.01																									

※ 次ページに続く

2) 体格指標と食物嗜好の関連：

「揚げ物」は非肥満群より肥満群で、「スナック菓子」「さしみ」は肥満群より非肥満群で有意に選択した頻度が高かった ($p < 0.05$)。

肥満の有無との関連

食品名	食品を選択した人数(%)		p値
	非肥満群	肥満群 (肥満度 $\geq +20\%$)	
揚げ物	15(16.3)	6(50.0)	$p=0.01$
スナック菓子	26(28.3)	0(0.0)	$p=0.03$
さしみ	53(57.6)	3(25.0)	$p=0.03$

選択した人数(%)， χ^2 検定

【考察】岡山県における小学生の食物嗜好には男女差が存在することが明らかになった。また、肥満との関連のある食物嗜好も明らかになっており、今後、小児の食事指導等に活用できると考える。

成果資料目録